



主催：一般社団法人 関西建築構造設計事務所協会
後援：一般社団法人 日本建築構造設計事務所協会連合会 (FASA)
一般社団法人 日本建築構造技術者協会 (JSCA) 関西支部
一般社団法人 日本建築学会 近畿支部
公益社団法人 大阪府建築士会
一般社団法人 大阪府建築士事務所協会

第 47 回 公開講演会 報告

報告日 2022 年 11 月 28 日

会 長 前川 忠弘

技術委員長 横田 友行

第 47 回公開講演会が、2022 年 11 月 21 日に大阪市内の建設交流会館 8 階グリーンホールにて開催されました。多数の参加者が集まる中、前川会長の主催者挨拶から始まり、講演会は「最近の構造設計上の課題について～ピロティ建物の設計用応力と杭基礎の構造設計～」という題目について、東京大学地震研究所 災害科学系研究部門 教授の楠 浩一 先生にご講演いただきました。



前半はピロティ建物の設計用応力について、ピロティ建物の定義と規制、ピロティ階の必要強度とせん断設計、ピロティ柱柱頭の定着確保、耐震壁の最下層枠梁の終局強度設計の必要性、ピロティ建物の静的実験および FEM 解析の結果および日本建築学会「鉄筋コンクリート構造運営委員会」(主査：楠浩一)が提案している設計用応力について、お話しいただきました。

後半は杭基礎の構造設計について、二次設計のためのモデル化(連成系モデル・分離モデル)、杭の部材種別と D_s 設定の必要性、基礎梁降伏の建物全体挙動への影響、杭降伏時の靱性確保の必要性、基礎梁降伏時の耐震壁脚部モーメントの簡易な算出方法の提案についてお話があり、一般建物に基礎の二次設計を課すのはまだ難しいというお話を頂きました。構造設計者にとって大変有意義な講演会となりました。



ご参加いただきました皆様にとって有益な講演会であったことを切に願います。また、会員の皆様のご協力を得て円滑に開催することができました事、改めて感謝申し上げます。

対象者 建築構造関係者

参加費 無料

参加者 127 名